

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）
がん専門相談員の知識とスキルの可視化と達成度確認ツールの開発

研究分担者 近藤 まゆみ 北里大学病院 看護部
研究協力者 福地 智巴 静岡県立静岡がんセンター疾病管理センター よろず相談
研究協力者 酒見 惇子 神戸大学医学部附属病院 緩和ケアチーム／がん相談室
研究協力者 櫻井 雅代 国立がん研究センターがん対策情報センター
研究分担者 高山 智子 静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 教授

研究要旨：

【目的】がん専門相談員に必要な知識やスキル全体の可視化と個々人の到達度を把握するためのツール「がん専門相談員学習ルーブリック評価票」（以下、「ルーブリック評価票」）を作成した。今回は、ルーブリック評価票の具体的な活用について検討するために、ルーブリック評価票を用いた地域単位の研修会を実施し、活用のためのガイドブックを作成することを目的とした。

【方法】質的記述的研究。ルーブリック評価票を用いた研修会を開催し、地域単位で行う研修会開催の実施可能性と具体的な活用方法を検討した。ルーブリック評価票の作成過程や研修会で得られた意見などから、ルーブリック評価票を効果的に活用するためのポイントを抽出し、ガイドブックを作成した。

【結果】「高知県がん相談員研修：ルーブリック評価票を用いた研修会」を開催した。アンケートに回答した全ての参加者が、自己を振り返る機会になり、自己の学習課題や学習目標の設定に役に立ったと回答した。また、73%が部署の目標管理へ活用できると回答し、91%がスタッフ教育に活用できると回答した。ガイドブックには効果的な活用に向けて5つの項目を記述した。

【考察】ルーブリック評価票の活用の体験は、自己の振り返りや今後の学習課題・目標の設定、スタッフ教育などに役に立つことが示唆され、ルーブリック評価票を用いた研修会は、地域単位の企画でも活用できることがわかった。今後は自己評価への活用だけでなく、組織単位での活用および活用のための周知についても検討が必要である。

A. 研究目的

がん専門相談員は、多様化・複雑化する様々な相談に対応するために、幅広い知識や相談スキルが求められている。がん専門相談員が能力を維持向上していくためには、e-learningや集合研修だけではなく、がん専門相談員に求められる知識やスキルを理解し、自己を振り返りながら、日常の実践の中にある個人的・組織的な学習や振り返りが大切である。

我々は、2023年度より、がん専門相談員に必要な知識やスキル全体の可視化と個々人の到達度を把握するためのツール「がん専門相談員学習ルーブリック評価票」（以下、ルーブリック評価票）の検討を重ねてきた。これは、教育領域等で広く用いられているルーブリックの特徴^{1) 2)}を用いて、がん専門相談員に求められる能力や学習課題を段階的に示したもので、9つのがん専門相談員の学習課題と、それぞれの評価観点をレベル1～5の5段階で示したマトリックスで構成されている。これまで、がん相談に造詣が深い人々が参加してル

ーブリック評価票の試作版を作成し（資料1）、内容の推敲と活用方法の検討を重ねてきた。

最終年度となる今回は、ルーブリック評価票の具体的な活用について検討するために、ルーブリック評価票を用いた地域単位の研修会を実施し、活用のためのガイドブックを作成することを目的とした。

B. 研究方法

1. 質的記述的研究

2. ルーブリック評価票を用いた研修会の開催

1) 研修会参加の募集と実施方法

昨年度、日本がん相談研究会会員のメーリングリストを使用して、ルーブリック評価票を用いた研修会への参加募集を行い、日本全国から23名が参加した。今年度は、地域単位で行う研修会開催の実施可能性と具体的な活用方法を検討するために、前述の23名に声をかけ、希望があった都道府県を対象に研修会を行った。

研修会スケジュール

13:30~13:40 研究、研修会の概要説明

13:40~14:20

講義「ループリック評価票について」

14:40~15:40 グループディスカッション

15:40~16:30 全体ディスカッション、まとめ

2) 研修会の参加者に対して、無記名式アンケートを行った。アンケート項目は以下の通りである。

①自己を振り返る機会になったか 3段階評価

②自己の学習課題や学習目標を考える上で役に立ったか 3段階評価

③部署全体の目標管理に活用できるか 3段階評価

④スタッフ育成に活用できるか 3段階評価

3. 「ループリック評価票：活用のためのガイドブック」（以下：ガイドブック）の作成

ループリック評価票の作成過程や研修会で得られた意見、アンケートの結果などから、ループリック評価票を効果的に活用するためのポイントを抽出し、ガイドブックを作成した。

（倫理面への配慮）

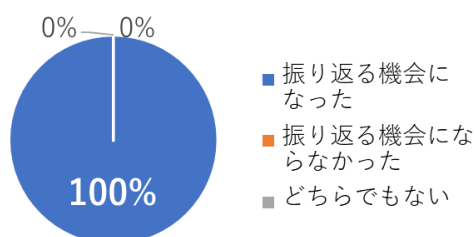
本研究は、北里大学医学部・病院倫理委員会／観察・疫学研究審査委員会より「審査対象外（受付番号：B24-154）」の判断を得て実施した。個人情報収集しないが、研修会への参加希望を募るにあたり、本研究の目的と方法、倫理的配慮を説明し、研究参加に同意した者が研修会へ参加した。

C. 研究結果

1. ループリック評価票を用いた研修会の実施

高知県から希望があり、「高知県がん相談員研修：ループリック評価票を用いた研修会」を開催した。研修参加者は12名で、看護職4名、福祉職7名、相談員1名であった。このうち2名は他県からの参加であった。アンケートは11名が回答した（回答率91.7%）。

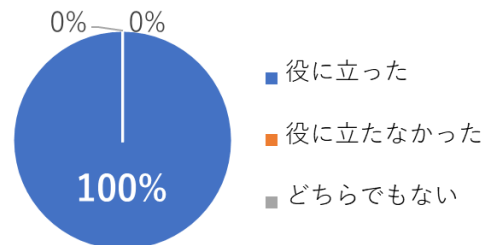
1) 自己を振り返る機会



アンケートに回答した全ての参加者が、ループリック評価票を自己評価した体験と、グループで話し合った経験を、自己を振り返る機会になったと回答した。がん専門相談員が能力を高める段階

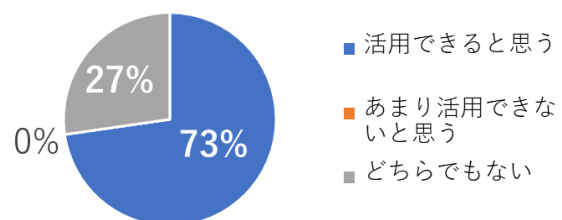
や視点を理解することができ、現在の自己の状況や能力が明確になったという意見が多く聞かれた。一方で、表現の曖昧さに悩んだり、レベルを選択した理由の記述に苦労した人もいた。

2) 自己の学習課題や学習目標設定への活用



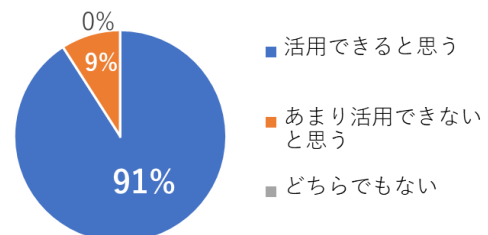
アンケートに回答した全ての参加者が、自己の学習課題や学習目標の設定に役に立ったと回答した。また、自己評価だけではなく、複数人で評価することでフィードバックを受ける機会になったり、がんに限らず、他の領域でも活用できるという意見もあった。さらに、＜知識を向上させる方法＞や＜対策のヒント＞があると、今後の取り組みにつながるという意見も出された。

3) 部署全体の目標管理への活用



部署の目標管理への活用については、73%の人が活用できると回答した。新人からベテランまで、幅広く活用できる指標であるため、目標管理の基準になり、相談支援の質向上や対応の統一を目指すことができるという意見があった。一方で、27%の人が目標管理に活用できるかどうかはわからないと回答した。まずは自分がループリック評価票を理解し、部署目標への活用はその後に考えたいという意見であった。

4) スタッフ教育への活用



スタッフ教育への活用については、91%の人が

活用できると回答した。教育場面で活用することで、スタッフの得意とする事、苦手なことがわかり、具体的な教育に活用できるという意見が多かった。スタッフ教育には活用できないと回答した人が1名いたが、その理由の記載はなく不明であった。

2. 「ループリック評価票：活用のためのガイドブック」の作成

ループリック評価票の作成過程や研修会で得られた意見、アンケートの結果などから、ループリック評価票を効果的に活用するためのポイントを抽出し、ガイドブックを作成した（資料2）。ガイドブックには以下の5項目を記述した。

- ・ 本ガイドの目的
- ・ ループリック評価票の概要
- ・ 活用方法（活用例）
- ・ ループリック評価票を活用することで得られる効果（例）
- ・ 活用における留意点

なお、がん相談専門員に求められる役割や活動内容は、施設や職種の特徴によって違う場合もある。活用にあたっては、それぞれの特徴に合わせてループリック評価票の内容を変更し使用することもできる仕様とした。そのため、本ループリック評価票は基本的なものだとわかるよう「がん相談専門員学習ループリック基本評価票」とした。

D. 考察

2023年度より検討を重ねてきたループリック評価票を活用し、今年度は地域単位で行う研修会を開催した。ループリック評価票の活用の体験は、参加者にとって自分を振り返る機会になり、自己の学習課題や学習目標の設定やスタッフ教育などに役に立つことがわかった。これにより、ループリック評価票を用いた研修会は、地域単位の企画でも活用できることがわかった。

研修会開催の応募は高知県のみであり、関心を寄せた都道府県はいくつかあったが、すでに研修会の年間予定が組まれた後であった。地域研修は年度初めに企画されることが多いことを考慮に入れ、早めの声かけが必要であるとともに、今後はループリック評価票の周知を行い、がん専門相談員の学習への活用について伝えていくことが必要である。

今回の研修会は、主にループリック評価票を自己評価に活用したため、現状の振り返りや今後の課題を考える体験になっていた。ループリック評価票の活用は、これ以外にも部署における他者評価や目標管理、スタッフ教育の場面への活用などがあり、今回の研究では、これらの活用について具

体的に示すまでに至らなかった。ガイドブックには、スタッフへの教育指導の場面で、成長の段階を共通の指標を用いて説明するなど、現状と今後の目標を具体的に示していくツールとして活用できること、ループリック評価票を用いて事例を紐解いていくことで、実践の言語化や演繹的な意味づけに活用することができることが記述されている。また、組織の目標管理への活用については、組織（部署）の強みや弱みを分析し、スタッフの育成や成長を意図した組織（部署）全体の目標管理に活用することができることが記述されている。今後は自己評価以外の活用についても検証を重ね、施設や職種の特徴を考慮しながら、組織単位で活用していく方法についても検討が必要である。

E. 結論

ループリック評価票の活用の体験は、自己の振り返りや今後の学習課題・目標の設定、スタッフ教育などに役に立つことが示唆され、ループリック評価票を用いた研修会は、地域単位の企画でも活用できることがわかった。今後は自己評価への活用だけでなく、組織単位での活用および活用のための周知についても検討が必要である。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料1 がん専門相談員学習ルーブリック基本評価票

がん専門相談員 ルーブリック評価票

★レベルが示す時期 内容の特徴	レベル 1 ★相談対応の導入 要素を知る	レベル 2 ★基礎研修 3 の目標・終了時期 基本姿勢を持つ 具体的アクション・行動がとれる	レベル 3 ★研修後に実臨床に戻って目指す活動 具体的な人の言動や関係性などを適切に 捉え対応する	レベル 4 ★さらに発展的に個人で目指す最終目標 人の言動や関係性などの背景、見えない ものを捉え対応する(例：予後予測、リス ク、価値観など)	レベル 5 ★教育的関わりができる／発展的に用い ることができる／組織的な対応につなげら れる 複雑性、困難性が、より高い状況を捉え 対応する
-------------------	---------------------------	---	--	--	--

1 がん対策、がん診療における相談支援の役割について知り、発展的に役割を担う

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
がん対策基本法、がん対策基本計画、「がん診療連携拠点病院等の整備について」の指針(指定要件)で求められる役割や相談支援センターで持つべき機能がわかり、対応できる	レベル() 理由	・がん対策基本法、がん対策基本計画、「がん診療連携拠点病院等の整備について」の指針(指定要件)で求められている役割や相談支援センターで持つべき機能を知っている、または理解している。 * がん診療連携拠点病院について * がん相談支援センターについて * 指定要件で求められていることについて ・上記における組織の中での自分の立場、立ち位置を意識している	・がん専門相談員が行う相談対応について理解している * がん相談支援センターがめざすもの * がん専門相談員の役割 * Core Valules * がん相談 10 の原則 * 相談支援のプロセス	・Core Valules/相談支援のプロセス/相談対応の 10 の原則を意識しながら相談対応を行うことができる ・行った相談対応について、客観的に振り返ることができる/機会を持つことができる -部門内カンファレンス -QA 検討会 -メンタリング等	・整備指針で求められている相談対応ができているか検討することができる ・行っている相談対応等の課題を整理することができる ・新たな(これまでに経験のない)相談内容であることや、対応方法に課題があることに気づくことができる ・新たに生じた課題について整理することができる ・国の動きや法律の改正など社会の動きに関心を持ち、積極的にがん対策の流れを	・相談対応現場で起きていることを把握し、新たな体制づくりにつなげられる ・整理された課題について、検討することができる -部門内 -施設内 -県内/広域/全国等 ・課題に対する対応策を提案できる -部門内 -施設内 -県内/広域/全国等
相談員が総合的にやるべき課題(本ルーブリック学習課題 3～7)を理解し、その目的と必要性を意識して対応できる	レベル() 理由		・相談者のニーズに沿った相談支援業務を行うために、相談員として意図した役割発揮(学習課題 3～7)があることを知る ・相談対応に必要な知識、予測、意図を意識して使う必要があることを知る	・相談者のニーズに沿った相談支援業務を行うために、相談員として意図した役割発揮(学習課題 3～7)があることを意識して対応できる ・相談対応に必要な知識、予測、意図を意識して対応できる		

2 相談方法・ツール(対面、電話、オンライン等)の違いによる相談対応の特徴を踏まえて対応する

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
相談の形式、相談者のいる場所、対象による対応方法や範囲の違いを理解し、対応する	レベル() 理由	・相談対応ツールの特徴、メリット、デメリットがあることを知る	・相談対応ツールの特徴、メリット、デメリットを理解する	・相談対応ツールの特徴を踏まえて、対応する		
社会の変化に伴い、新たに活用するツールを理解し、対応する	レベル() 理由	・相談対応に利用できる既存/新たな支援ツールがあることを知る	・既存/新たな支援ツールを利用する際の留意点がわかる	・組織内のルールや方針に照らし合わせて、既存/新たな支援ツールの対応・導入方法を考えることができる	・組織内のルールに照らし合わせて、既存/新たな支援ツールを導入できる ・必要な場合には、既存/新たな支援ツールの導入を提案できる	・導入した既存/新たな支援ツールの利用状況の分析や課題を整理し、維持/発展的に利用できる

3 想いを受け止め対応する(態度、姿勢、スキル)

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
相談者が自身の考えや想いを自由に述べることのできる雰囲気を作ることができる	レベル() 理由	・相談対応を行う上で話しやすい場や雰囲気 が大事であることに気づくことができる	・話しやすい場を作る方法が分かる * プライバシーが保てる場の確保 * 面談室内のレイアウトの配慮 * 同意を得ず相談内容を外部に漏らさないことを保障する * 匿名での相談を受け付ける	・話しやすい雰囲気を作ることができる * 言葉遣い、声の大きさ、トーン * 沈黙や間を効果的に使う * 相談者の発言に被らないように発言する		
相談者に関心を持ち、先入観を持たず相談者の語りを聞くことができる	レベル() 理由	・相談者の語りに関心を持っていく	・相談員自身が相談者を評価したり先入観を持つ可能性があることを自覚する	・先入観を持ったりレッテルを貼らずに話を聞くことができる ・最初から結論を持たずに話を聞くことができる	・相談員に対する期待を把握することができる ・相談者の人となりや、相談者の視点で捉えることができる	
相談者の感情を受け止めることができる	レベル() 理由	・相談者の感情を理解する	・相談者の感情に合わせた話し方や聞き方が分かる(姿勢、トーン、話し方など)。	・相談者の感情に合わせた話し方、聞き方ができる。	・情緒的なことに巻き込まれ客観性を失わないよう、適切な距離を保つ	・怒りや深い悲しみなど、難しい場面にも対応できる ・感情が見えにくい場面や表出されない感情にも対応できる
相談者の状況や感情を受け止め、相談者に確認することができる	レベル() 理由	・相談者が話しやすいと思うような話し方、聞き方ができる。 * 受け止める・聞く * 遮らずに話を聞ける * 適切に相づちできる	・相談者があるがままに受け止め、伝え返す方法が分かる。 * オウム返し、言い換え * 要約する ・相談者があるがままに受け止め、伝え返すことができる。	・相談員の反応を通して相談者自身が気持ちや状況に気づけるように対応することができる。 * 適切に要約する * 聞いたことを適切にフィードバックする		
相談者の反応に合わせた対応ができる	レベル() 理由	・相談者の話を聴こうとすることができる	・相談者の反応に合わせた意図的な対応の必要性を理解できる ・理解してくれる人がいることで、相談者は一歩前に進むことができることを理解する	・相談者の反応に合わせた意図的な対応ができる ・理解してくれる人がいることで、相談者は一歩前に進むことができる。このことを意識して、コミュニケーションスキルを駆使した対応ができる		

4 困りごとの本質を共に考え、共有する

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
主訴および(主訴だけではなく、)“真のニーズ”があることを理解できる	レベル() 理由	・誰が何に困っているのかわかる	・相談者の主訴(訴えていることや質問)だけでなく、潜在的なニーズがある可能性を意識した対話ができる	・相談者の主訴とニーズ(潜在的)を明確にできる ・相談者が主訴とニーズのズレに気づけるように関わることができる ・相談者のニーズと相談員が捉えたニーズの不一致に気づくことができる	・相談者のニーズと相談員が捉えたニーズの不一致を共有しながら、取り組むべき課題を明確にしていけることができる	
全人的視点から相談者を理解し、問題を整理して捉えることができる	レベル() 理由	・全人的視点(身体・こころ・暮らし・スピリチュアル)から相談者や困りごとを捉える必要性がわかる	・困りごとが全人的視点のどの側面できているのかわかる ・困りごとが全人的視点の各側面に影響し合っていることに気づくことができる	・困りごとが全人的視点の各側面にどのように影響しているかを整理して捉えることができる ・身体・こころ・暮らし・スピリチュアルの各側面を統合した視点で、相談者に向き合い、対応することができる	・困りごとの中にある相談者の価値観や信念等を捉えることができる ・困りごとの中にある相談者の価値観や信念等を共有する関わりができる	
疾患・治療の特徴や病態から困りごとを捉えることができる	レベル() 理由	・疾患(部位)の特徴や治療に対する基本的な知識を理解している	・相談者の話から患者の病態・病状・病期を推測したり、予測したりできる	・疾患の特徴や病態から、相談者の様子や状態に合わせて、何をどこまで共有するかを判断することができる	・疾患の特徴や病態から、今後起こり得る問題や課題を予測すること(リスクアセスメント)ができる	・疾患の特徴や病態から、相談者と起こり得るリスクを共有し、相談者が課題に対して具体的な対策を検討できるように関わる
困りごとを心理社会的側面から捉え対応することができる	レベル() 理由	・基本的な精神腫瘍学の知識を理解している ・社会的課題を解決するために役立つと思われる一般的な社会保障制度や相談機関を把握している	・相談者の心の状態を精神腫瘍学等に照らして推測したり、予測したり捉えることができる ・困りごとを社会的側面から捉え、治療や療養に与える影響を理解することができる	・相談者の心の状態に合わせて心理社会的課題を共に整理できる ・心理社会的課題の解決に向けて必要な資源(公的・私的)を相談者と検討することができる ・相談者が心理社会的課題に関するサポート資源に気づけるように関わることができる	・心理社会的課題の解決に向けて、相談者が資源に繋がるために必要なステップがイメージできる ・相談者の心身の状態や対処能力を測りながら、資源の活用に向けて調整や連携ができる	・診療経過や病状の変化によって、心理社会的課題も変化することを予測し、起こり得るリスクを院内外のチームメンバーと共有することができる
相談員が自分の認識・理解・反応のあり様が、相談者や支援に与える影響について自覚することができる	レベル() 理由	・自分の認識や理解や反応のあり様が支援に影響することを理解している	・自分の苦手なテーマや不慣れな分野に気づくことができる ・院内外にどのような専門職がいるのか把握したり、他職種の専門性を理解しようとするすることができる	・自分の専門分野に偏らずに話を聴くことができる ・相談者の様々な価値観に中立的な姿勢で話を聴くことができる ・知らないことや分からないことは適切な専門家に確認したり、相談することができる		

5 患者・家族・医療者との関係の強化や改善のために働きかける

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
関係性を評価し適切な情報提供ができる	レベル() 理由	・相談者の対話のなかから、相談者および相談者を取り巻く人とのコミュニケーションのあり方を把握したり想像したりできる ・相談者の他者との相互理解の程度(ズレとか一方通行など)を推測したり確認することができる ・医療者との良好な関係が治療や療養に影響することを共有できる	・関係性に影響を与えている要因が推測できる(病態、体制、個性、過去の体験等) ・必要に応じてセカンドオピニオンや他職種 of 介入について情報提供できる	・相談者(患者・家族等)の了解を得た上で、他職種・他機関との橋渡しができる	・関係の強化、改善の可能性、相談員として関われる限界等を踏まえて具体的な対応策を検討したり実施できる	
医療機関の機能や体制を理解している	レベル() 理由	・患者の所属する医療機関の機能や体制を推測し調べたりすることができる ・自分の医療機関の機能や専門性、体制を理解している	・相談者に関わりのある医療チームメンバーを推測し相談者に確認することができる ・相談者から見たキーパーソンとなる医療チームメンバーを推測し相談者に確認する	・相談者の思いや期待を受け止めながら、できること・できないことを適切に説明することができる。また、そのためのツールを準備できる	・院内の各チームにおけるチームリーダーになる人を把握し、関係を構築していく意識を持つことができる	・日頃から医療スタッフと情報共有やフィードバックし合える関係を築く努力をする ・チームが育つのを信じて待てる
橋渡し役や代弁者となる	レベル() 理由	・チームの一員としての認識を持っている ・相談者にとって適切な利益になるためにはどうしたら良いかを考えられる ・それぞれの言い分を中立的な立ち位置で聴くことができる	・誰と誰、何と何の関係性の中で齟齬が生じているのかに気づくことができる ・患者・家族・医療者間のパワーバランスを推測したり把握することができる	・相談者が全体を俯瞰して自分の状況を理解できるように関わることができる ・齟齬が生じている点を患者側・医療者側のそれぞれの立場から意識して伝えることができる ・必要に応じて相談者(患者・家族等)の了解を得た上で代弁者になれる	・相談者の橋渡しや代弁者としての役割を遂行する上での留意点や限界を把握し、行動できる	

6 信頼できる情報を見極め、相談者に合わせた情報支援を行う

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
正しい適切な情報を得るための情報支援の必要性がわかる	レベル() 理由	相談者のもつ知識や情報の量や関心、情報へのニーズを知る	・相談者への情報支援の必要性を理解している	・情報探求において、相談者が陥りやすい点を述べることができる	・主訴の内容から、相談者が正しい適切な情報を得る必要があることがわかる	・主訴には表現されていない内容でも、相談者が正しい適切な情報を得る必要があることがわかる
信頼できる情報がどうかを精査し、正しい情報を提供できる	レベル() 理由	・基本的な PC スキルを習得し、情報検索ができる ・がん情報サービスや診療ガイドラインなど、信頼できる情報があることを理解している ・信頼できる情報と不確かな情報があることを理解している	・信頼できる情報の伝え方がわかる	・信頼できる情報と不確かな情報を極める方法について理解している ・信頼できる正しい情報を提供することができる	・氾濫する情報のなかで、信頼できる正しい情報は何かを見極めることができる ・新しく入手した情報を、その後の相談活動に活かすことができる	・信頼できる情報の管理・運用に組織的に取り組むことができる
相談者が必要としている情報を、相談者の状況に合わせて提供する	レベル() 理由	・やたらめったら情報を提供しないことを知っている ・提供する情報には、情報の量や質、タイミングなどを考慮することを知っている	・相談者の主訴について情報提供ができる ・院内外の資源を活用し、適切な情報提供先につなぐことができる ・相談者が必要としている情報を、その人の状況に合わせて提供する必要性を理解している	・相談者の“真のニーズ”について情報提供ができる ・相談者の今後の状況を予測し、状況に合った情報の提供ができる ・相談者の反応、不足している情報や誤解している情報を確認し、ギャップを減らす(埋める)	・相談者の状態(心理状態・理解力・持っている情報の量や質など)に合わせて、伝える情報の量・内容・伝え方を調整することができる ・相談者に知りたくない情報があることを理解し、相談者の状況に配慮しながら情報提供ができる	・主訴や“真のニーズ”に表現されていない内容でも、相談者の困りごとへの対応に必要な情報がわかり、相談者と共有できる。また、その情報を提供することができる
相談者が情報を探求する力を高めることを支援する	レベル() 理由	・情報はその人の力になることを知っている	・相談者の話から、相談者がどのように情報を収集しているのか理解できる	・相談者がどのように情報を収集しているかを意識して対応できる ・相談者が必要としている情報を収取できるよう支援できる	・相談者のヘルスリテラシーを意識することができる ・相談者の情報探求の特徴やヘルスリテラシーをアセスメントすることができる	・相談者が必要としている情報を探求できるよう、相談者の情報探求の特徴やヘルスリテラシーに合わせて支援できる

7 相談者のその人らしい意思決定を支援する

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
意思決定を行う相談者の状況を理解することができる	レベル() 理由	・意思決定支援を行ううえで、相談者の状況を理解する必要性がわかる	・相談者の話から、意思決定に影響する状況/要因を理解する * 身体的状況(例：治療状況とその効果、苦痛症状等) * 精神的状況(例：脳転移、うつ・心理的状态、認知症、精神疾患等) * 社会的状況(例：経済状況、独居、地域等) ・相談者に意思決定ができる能力があるかどうかわかる	・意思決定に影響する身体的、精神的、社会的な状況を全人的・統合的に捉えることができる ・相談者の意思決定への猶予が、どの程度であるかわかる	・相談者の今後の状況を予測し、相談者の意思決定における優先順位がわかる ・相談者の意思決定の能力や価値観を理解し、その人に合わせた支援ができる	
意思決定に影響を及ぼす周囲の状況を理解することができる	レベル() 理由	・意思決定支援を行ううえで、周囲の状況を理解する必要性がわかる	・意思決定に関わる人がわかる ・意思決定のキーパーソンがわかる ・意思決定に関する他者からの手助けやアドバイスの状況がわかる	・意思決定における周囲の意向、力動、パワー・バンス等がわかる ・意思決定における周囲の状況が、相談者の意思決定に与える影響を捉えることができる	・意思決定における周囲の状況が、相談者の意思決定に与える影響について相談者と共有し、その後の支援につなぐことができる	
相談者の状況に合わせ意思決定支援ができる	レベル() 理由	・相談者の話から、意思決定に関する困りごとの内容を明確化する必要性を理解している ・相談者の状況に合わせた意思決定支援の必要性がわかる	・意思決定の大きさにかかわらず、相談者の主訴から、意思決定に関する困りごとの内容がわかる ・相談者が意思決定に必要な情報を十分に得ているかどうかわかる	・相談者の主訴やニーズから、意思決定に関する困りごとの内容と、その選択肢に関するメリット・デメリットがわかる ・意思決定に必要な情報を提供することができる ・相談者の意思決定スタイルを理解することができる * パターナリズムモデル、 * インフォームドディシジョンモデル、* シェアードディシジョンモデル	・相談者も気づいていない意思決定に関する課題を顕在化させ、相談者と共有することができる ・相談者が意思決定に影響する自己の価値観に気づくことを支援できる ・相談者が自己の価値観に基づいて意思決定することを支援できる ・相談者の意思決定スタイルに合わせて支援できる	・意思決定を通して、相談者がエンパワーされることを支援できる

8 相談対応の質を担保し、相談対応力の向上に努める

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
相談支援センターの活動や対応について、客観的に把握する機会を持つことができる	レベル() 理由	・相談支援センターとしての対応力を維持・向上するために、自分の活動や対応を客観的に把握する必要性を理解する	・相談支援センターの組織としての活動内容について、振り返る場に参加することができる * 施設内フィードバック * 利用者フィードバック	・相談支援センターの組織としての活動内容について、振り返る場を持つことができる * 施設内フィードバック * 利用者フィードバック ・振り返りの内容を、今後の活動の改善に活かすことができる	・相談支援センターの組織としての活動内容について、振り返る場を持つことができる * 施設間フィードバック * 第三者フィードバック ・振り返る場において、心理的安全性に配慮した環境を作ることができる	・組織内に建設的にディスカッションする風土を作り、スタッフの成長を意図して教育的に関わることができる
自らを振り返り、がん相談の対応能力を向上させていくことができる	レベル() 理由	・相談員としての対応力を維持・向上するために、学ぶ必要性を理解する	・自分の強みと弱点がかかる ・自分の能力を高めるために、何を学ぶか、課題がわかる * 1 つとしてルーブリックを使う ・相談員が学ぶための環境、ツールがあることを知っている * QA 評価ツール * 都道府県や NCC が提供する研修	・学ぶ機会を持つことができる ・自分の強み・弱みに対応した学習ができる	自分の学習目標をもち、強み・弱みを認識した上で、効果的に学ぶことができる * 自分の学習目標を立てられる * 計画的に学ぶことができる	

9 相談員のストレス・マネジメントを行う

	自己評価	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
自分や所属組織のストレスマネジメントを行える		・自分やチーム、組織に生じやすいストレスやその解消が必要になることがわかる ・自分が感じているストレスに気づくことができる	・自分のまわりにあるサポート資源に気づくことができる	・自分が感じているストレスについて、対処方法を知っている ・自分のまわりにあるサポート資源を活用することができる -組織内 -組織外	・他の相談員/スタッフが感じているストレスに気づくことができる ・ストレスを感じている他の相談員/スタッフの話を聞いたり、サポート資源につなぐことができる	自分や相談員に必要なサポート資源を、組織内外でつくることができる(ネットワーク化も含む) -組織内 -組織外

がん専門相談員学習ルーブリック基本評価票 活用に関するガイド

本ガイドの目的

がん専門相談員は、多様化・複雑化する相談に対応するために、幅広い知識や相談スキルが求められている。がん専門相談員が能力を維持向上していくためには、求められる知識やスキルを理解し、自己を振り返りながら、日常の実践の中にある個人的・組織的な学習や振り返りが大切である。「がん専門相談員学習ルーブリック基本評価票（以下ルーブリック評価票）」は、がん専門相談員に必要な知識やスキル全体の可視化と個々人の到達度を把握することができ、がん専門相談員の能力の向上において活用できる資料として作成された。本ガイドは、このルーブリック評価票を効果的に活用していただくためのポイントが記載されている。一人ひとりのがん専門相談員の成長と、より良いがん相談の実践を目指し活用していただければ幸いである。

1 がん専門相談員学習ルーブリック基本評価票とは

ルーブリック評価票は、教育領域等で広く用いられているルーブリックの特徴を用いて、がん専門相談員に求められる能力や学習課題を段階的に示したもので、9 つのがん専門相談員の学習課題と、それぞれの評価観点をレベル 1～5 の 5 段階で示したマトリックスで構成されている。

1) ルーブリック評価票の構造は以下の通りである。

学習課題					
評価尺度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
評価観点	評価基準				

がん専門相談員が獲得したい能力や技能

学習課題がどの程度達成されたかを判定するための評価の区分
レベル1～5がある

学習課題として求める具体的なスキルやコンピテンシーの論点を 端的に表現したもの

それぞれの評価観点における
評価尺度に応じた学習者の
行動や態度、典型的なパフォーマンスの特徴を記述して説明したもの

2) がん専門相談員の学習課題は、以下の9項目がある

- ① がん対策、がん診療における相談支援の役割について知り、発展的に役割を担う
- ② 相談方法・ツール(対面、電話、オンライン等)の違いによる相談対応の特徴を踏まえて対応する
- ③ 想いを受け止め対応する(態度、姿勢、スキル)
- ④ 困りごとの本質を共に考え、共有する
- ⑤ 患者・家族・医療者の関係の強化や改善のために働きかける
- ⑥ 信頼できる情報を見極め、相談者に合わせた情報支援を行う
- ⑦ 相談者のその人らしい意思決定を支援する
- ⑧ 相談対応の質を担保し、相談対応力の向上に努める
- ⑨ 相談員のストレス・マネジメントを行う

3) 評価尺度(レベル1～5)が示すがん専門相談員としての時期、内容の特徴は以下の通りである。

評価尺度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
★レベルが示す時期	★相談対応の導入時期	★基礎研修3の目標・終了時期	★研修後に実臨床に戻って目指す活動	★さらに発展的に個人で目指す最終目標	★教育的関わりができる／発展的に用いることができる／組織的な対応につなげられる
内容の特徴	要素を知る	基本姿勢を持つ 具体的アクション・行動がとれる	具体的な人の言動や関係性などを適切に捉え対応する	人の言動や関係性などの背景、見えないものを捉え対応する(例：予後予測、リスク、価値観など)	複雑性、困難性が、より高い状況を捉え対応する

2 活用方法(活用例)

1) がん専門相談員に求められる能力やスキルを理解する資料として活用する

ルーブリック評価票の内容を知ること、がん専門相談員に必要とされる能力の意識化や共通理解につながる。また、がん専門相談員に必要な能力・スキルセットとして提示することができる。

(例) 新しく配置されたがん専門相談員が参考にする資料

がん相談の実践に悩んだときに参考にする資料

組織が人員配置を考えるうえで参考にする資料

2) 自己の実践の振り返りに活用する

自己評価*を行うことで自分の強み、弱みを理解し、自分の現状や目指す姿を考えることができる。また、自己評価の体験を複数人で共有することで、フィードバックを得ることができる。

(例) 自己をみつめるリフレクションの機会にする

個人の目標管理や今後の学習計画を考える機会にする

事例や相談対応を振り返る場面で活用する

ルーブリック評価票を用いた研修会を開催し、自己評価の体験を共有する

3) スタッフ育成に活用する

スタッフへの教育指導の場面で、成長の段階を共通の指標を用いて説明するなど、現状と今後の目標を具体的に示していくツールとして活用できる。また、ルーブリック評価票を用いて事例を紐解いていくことで、実践の言語化や演繹的な意味づけを示すことができる。

(例) OJT におけるスタッフ教育を行う場面で活用する

実践の振り返りや部署内のミーティングなどにおいて、日頃から「ルーブリック評価票」に触れる

複数名で事例検討を行う機会に活用する

ベテランがん専門相談員の実践事例を紐解いていく場面で活用する

4) 組織の目標管理に活用する

組織(部署)の強みや弱みを分析し、スタッフの育成や成長を意図した組織(部署)全体の目標管理に活用することができる。

(例) 年度目標の立案に活用する

5) 研修の企画や評価に活用する

各種研修の企画運営において、相談員としての経験やニーズなど研修対象者の特徴に合わせて、研修目標、強化したい能力、研修のゴール設定などの明確化に活用できる。また、その研修がくどのレベルをめざしたものかを明示することで、受講のしやすさや動機付けの促進につながる可能性がある。

(例) 都道府県のがん相談研修の企画において活用する

* 自己評価とは

自己評価とは、自己学習の際に学習者が自分自身を振り返り、それを以降の学習に生かしていくことです。自己学習の文脈においては、自己の理解状況を把握したり、課題を遂行した後にそのでき具合を見る、といった意味で用いられます。また、心理学においては学習に限らず、自己の精神状態や自分をどう人間だとみているかなどにも用いられます。自己評価は効果的で主体的な学習を目指すには欠かすことのできないもので、学習へのフィードバックが大いに期待できます。

(東京大学大学院教育学研究科資料より 一部改変)

3 ルーブリック評価票を活用することで得られる効果(例)

これまでの使用経験から、ルーブリック評価票を活用することで得られる効果として、以下のような意見が収集された。

- がん専門相談員の能力向上の道筋がわかり、求められる能力の意識化につながる
- 自分自身や組織の強みや弱み、課題を確認・共有することができる
- 目標が明確になり、自己課題や組織課題に取り組むことができる
- もやもや悩んでいることを客観視することができ、具体的な行動レベルで自己の対応を振り返ることができる

- 職種や経験が違ってても、同じ視点で話し合いができる
- 能力開発の一助となる
- 相談支援の質向上や対応の統一が目指すことができる
- がんに限らず、共通で使える内容である

4 活用における留意点

- 1) 「ルーブリック評価票」は、知識レベルや単純な業務習熟度をチェックするものではなく、相談対応をするうえで求められる質的な内容が示されている。＜評価する／される＞ことが目的ではなく、がん専門相談員の能力開発に活用するものであることを押さえ、効果的な活用につなげていく。（評価は手段であり、活用の目的は気づきの促進である）
- 2) 活用・評価のタイミングによっては、同じ項目でも評価を高くつける場合も低くつける場合もあり、その人の心身の状況に左右されるという特徴がある。活用においては、自分がなぜそのように評価したのかその理由を考え、自己の現状や課題に気づくことが大切である。また、それを他者とディスカッションすることで、さらに深い気づきにつながることを期待される。
- 3) 他者との共有やピアレビューなどに活用するときは、サポートティブな雰囲気と心理的安全性が醸成された風土が大切である。その人の弱い部分に触れる可能性があることに配慮し、承認のためのポジティブな活用を心がける。
- 4) 対象者の特性、課題、ニーズや時間的制約など、TPO に応じて「ルーブリック評価票」を部分的に使用することも可能である。
- 5) 「ルーブリック評価票」は、がん専門相談員に求められる能力や学習課題を段階的に示した基本的なツールである。活用にあたっては、施設や職種の特徴に合わせて変更し使用することも可能である。この場合、変更した旨を明示して使用する。
- 6) 「ルーブリック評価票」は、見る人によって様々な意見が出るツールである。今後も表現やレベル設定などの検討を重ねる必要がある。また、がん専門相談員に求められることは、時代の変化によって変わる可能性があるため、「ルーブリック評価票」の内容も変わることが予想される。これらの点も踏まえ活用する。

作成 2025年12月4日